

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 受託研究等実施事業費（森林文化アカデミー）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 岐阜県立森林文化アカデミー 教務課 電話番号：0575-35-2525(内207)

E-mail：c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,010 千円 （前年度予算額： 4,672 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,672	0	0	0	0	0	4,672	0	0
要求額	5,010	0	0	0	0	0	5,010	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

開学時から、森林・林業とその関係分野に係る高度な知識、技術、施設を要する問題解決の要請が多く、本学がその社会的要請に応えるためには実費を要請者側に負担してもらい取り組む受託の仕組みが必要であった。

(2) 事業内容

森林文化アカデミーにおいて、林業、森林環境教育、木造建築、木工において、地域が抱える問題について、地方自治体、団体、企業等からの委託（有料）により研究調査等を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方
委託者負担

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	2,236	報酬：2,206,000円、地域手当：23,000円、共済費：7,000円
旅費	935	
需用費	1,772	消耗品費：1,530,000円、燃料費：189,000円、光熱水費：53,000円
役務費	18	通信運搬費
使用料及び賃借料	49	
合計	5,010	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 後年度の財政負担
事業委託者の負担

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

実費による受託事業によって、地方自治体、団体、企業等からの森林・林業とその関係分野に係る高度な知識、技術、施設を要する問題解決の要請に応える。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R8年度 実績	R9年度 目標	R10年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

事業実施自体が依頼者から本学への研究依頼に基づくものであり、指標化は困難

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>民間企業2件、NPO法人2件、市町村4件、森林組合2件より研究依頼があり取り組んだ。内容は林業研修や木育等に関するものであった。</p> <p>受託事業により、県の森林・林業施策の一端を担う木育・木造建築の普及に貢献できた。今後も森林文化アカデミーの研究ノウハウや各種データの蓄積を活用することにより、地域の活性化に貢献していく。</p>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和5年度	<p>民間企業3件、市町村4件、森林組合1件より研究依頼があり取り組んだ。内容は林業研修や木育等に関するものであった。</p> <p>受託事業により、県の森林・林業施策の一端を担う木育・木造建築の普及に貢献できた。今後も森林文化アカデミーの研究ノウハウや各種データの蓄積を活用することにより、地域の活性化に貢献していく。</p>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	<p>民間企業3件、市町村4件、森林組合1件より研究依頼があり取り組んだ。内容は林業研修や木育等に関するものであった。</p> <p>受託事業により、県の森林・林業施策の一端を担う木育・木造建築の普及に貢献できた。今後も森林文化アカデミーの研究ノウハウや各種データの蓄積を活用することにより、地域の活性化に貢献していく。</p>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	アカデミーの基本理念の一つである「教育・研究活動を通じ、地域の活性化を目指していく」に合致している。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	森林文化アカデミーに蓄積された情報、知識を有効に地域活性化事業に寄与できた。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	受託は森林文化アカデミーでしかできない(教員知識、試験研究機器の保有等)研究内容であり、地域・産業貢献あるいは学生の資質向上に資する内容であるか等について、運営会議で協議検討したうえで行っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 本事業は本学自らが積極的に規模拡大するような性質のものではないが、本学が受託研究を引き受けている事実を知らないことで、解決できないでいる問題を抱えている団体等があるとすれば、現在ほとんど積極的には行っていないPR・周知を図る必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 受託研究等は、地域の森林・林産業等の振興に繋がるとともに、学生の資質向上に貢献できるため、教員等の通常業務に支障の無い範囲で積極的に推進する。
